

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第2部門第7区分
 【発行日】平成27年5月28日(2015.5.28)

【公開番号】特開2014-218369(P2014-218369A)
 【公開日】平成26年11月20日(2014.11.20)
 【年通号数】公開・登録公報2014-064
 【出願番号】特願2013-110348(P2013-110348)
 【国際特許分類】

B 6 5 F 1/00 (2006.01)

B 6 5 F 1/14 (2006.01)

B 6 5 F 1/12 (2006.01)

【F I】

B 6 5 F 1/00 B

B 6 5 F 1/14 E

B 6 5 F 1/12 1 0 2

【手続補正書】

【提出日】平成27年1月15日(2015.1.15)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

上端枠の一部を可動式にした調整枠を設け、上端枠の下方に複数の半円周枠を突起部で取り付け、最下部に車輪付きの底板を設けると共に、底板は蝶番で半円周枠に沿うように半分折り畳む構成にしたことを特徴とする車輪付きゴミケース。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【発明の詳細な説明】

【発明の名称】車輪付きゴミケース

【技術分野】

【0001】

本発明は、従来の円筒形を半分の形にして、袋を取り付ける引き手を可動式の調整部として大きさの異なる袋を取り付けられる、移動式の横出しゴミケースである。

【背景技術】

【0002】

公園などにある屋外のゴミ箱は大きくて、頑丈であるがその分重く、一般家庭向けではない。いつもピッタリはまる大きさの袋でなければずり落ちたりゆるすぎたりして効率が悪い。袋を上を持ち上げるのも一苦勞で、その際に木の枝が袋を破ってゴミ箱にひっかかることも多く、ゴミ箱を倒して取り出すこともある。取り出した袋を持ち運ぶのも大変である。

【0003】

公園などで落ち葉の掃除を観察すると、少なくとも三人がかりである。集めた落ち葉を袋に詰めるために二人がかりで袋をもって広げている。その袋はリヤカーを使って運んで

いる。

【0004】

家庭用に軽くて移動しやすいゴミケースがあれば、一人でも楽に落ち葉や枯れ枝の処理ができる。その上端枠が可動式であり引き手部分の調節をすることができれば、大きさの違う袋を買ってきてしまっても、ゆるまずに袋を取り付けられる。円筒形の半分の形状であれば、袋を取り出す際に上に取り出すことなく横に楽に取り出せる。車輪付きであれば、片手でも運べるし、引き手を伸ばせば移動の際に足元がぶつかることもない。底板を半分に折りたたむことができれば、収納スペースが半分になる。

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

解決しようとする問題点は、ゴミケースに取り付ける袋の周囲が、ゴミ箱の周囲より大きければ袋がだぶつき、小さければ落ちる。公園などにあるものは重くて大きい。袋を取り出すときに枝が袋を破る。重くなると、上に取り出しにくくなる。袋を引きずれば破れてしまうことがある。

本発明は、以上の問題点を解決するためになされたものである。

【課題を解決するための手段】

【0006】

本発明は、上端枠の一部を可動式にした調整枠を設け、上端枠の下方に複数の半円周枠を突起部で取り付け、最下部に車輪付きの底板を設けると共に、底板は蝶番で半円周枠に沿うように半分に折り畳む構成にしたことを特徴とする車輪付きゴミケースに関する。

【発明の効果】

【0007】

本発明のゴミケースは、取り付ける袋を最大に広げられ、重くなった袋を楽に運び、取り出しやすくしたという利点がある。

【図面の簡単な説明】

【0008】

【図1】 正面から見た斜視図である。

【図2】 横から見た図である。

【図3】 底板を折りたたんだときの横から見た図である。

【図4】 調整枠の調整部分を真上から見た図である。

【発明を実施するための形態】

【実施例1】

【0009】

本発明のゴミケースでは、図1に示す様に、上端枠1に袋を取り付けて、図4に示す様に、調整枠3の調整部分を袋の大きさに合わせる。使用する材質に応じて、ボルト、ナットの組み合わせや、磁石を取り付けて調整枠の固定をする。横からはみ出すことを防ぐために、紐もしくはゴム輪を突起部4に取り付けておき、反対側の突起部4にひっかけて袋が飛び出ることを防ぐ。ゴミケースは調整枠3を持ち、車輪7が取り付けられているので片手で移動可能である。

【実施例2】

【0010】

本発明のゴミケースは、図3に示した様に、底板6を半分に折りたたんで収納することができる。

【産業上の利用可能性】

【0011】

本発明のゴミケースは、一般家庭用として欲しかった、庭掃除用のゴミケースである。公共施設や公園での利用も大いに期待される。公園などを掃き掃除する場合、通常少なくとも2～3人で掃き掃除し、ちりとり、袋を持つ者、リヤカーを移動させる者など、多人数を必要としていた。しかし、本発明のゴミケースでは、一人でゴミケースとともに、ちり

とり、ほうきをいっしょに持ち運べて、袋を持つ者が不要となる。一人1台を与えて効率良く迅速に掃除ができる。

本発明のゴミケースは、図工の授業でボルトとナットの関係を学習するための工作キットとしても使える。

本発明のゴミケースは、ホームセンターで買うことができる部品で構成されるので、錆びても部品交換が可能である。上端枠と支柱の固定（支点）、半円周枠と支柱の固定（突起部）、支柱と底板の固定を溶接により行うことができ、また金属材料の代わりに竹材を使用することもでき、コスト的に安く完成させることができる。

【符号の説明】

【0012】

- 1 上端枠
- 2 支点
- 3 調整枠
- 4 突起部
- 5 蝶番
- 6 底板
- 7 車輪
- 8 磁石